

## 77 国家試験合格率向上を目指したデータ活用の取組み

### —模擬試験成績データの活用から効果的な受験指導への新展開—

函館視力障害センター教務課 森定 真、阿部博明、古賀英樹、太田浩之

#### I. 事業の背景と目的

(1) 従来の受験対策補習とその課題：国家試験合格率向上を目的とする従来の受験対策補習は、過去の国家試験での出題数や利用者の不振科目を参考に担当者が任意に企画・構成してきたため、その有効性、必要性が不明確であり、また、クラス単位の画一的、集団的形態の補習は、利用者個々の実態の網羅が不十分だった。国家試験合格率の維持・向上には、利用者個々の学力と理解度を客観的に把握し、エビデンスに基づいた有効性の高い受験対策が不可欠である。

(2) 目的：今年度事業計画重点事項に位置づけられた「模擬試験等の諸データ活用と戦略的な補習授業の強化・定着」への取組みとして、模擬試験の成績データから合格への傾向と対策を探り、受験学年利用者の諸データと比較、現状の学力を相対化させ、各自の課題に即した個別の指導、補習授業を提供するとともに、個々人の学力の客観的な把握と教育的ニーズを多角的に類型化し、各々の学習理解度に応じた個別指導法とそのエビデンスを充実させていくことを目的とする。

#### II. 模擬試験、実力試験の成績データ集積と分析

(1) 過年度の模擬試験データからみえる合格者の成績分布：年度末に実施される第3回あま指師模擬試験(150点満点)から、25年度の同国家試験合格者11名の平均点は112点(得点率75%)、同じく26年度7名の平均点は108点(得点率72%)であった。さらに「科目ごとの得点率」から、合格者の受験科目の中に得点率の極めて高い科目群の存在が認められ、合格に直結する5科目を受験対策の「重点科目」として位置づけた。

(2) 科目間の連携を考慮した支援体制：合格者を対象とした科目間の相関関係によると、解剖学、生理学を合わせた得点率と全科目の得点率との間に強い相関があり、両科目の得点率が高い者は衛生学、臨床医学各論、あん摩理論で高い得点率を示した。他に、2科目間に相関性が高い複数の組み合わせが認められ、概念立てや思考法の「共通点」や「相違点」の科目横断的比較が、相補的に一層の理解、知識を促すことが示唆された。以上のことから、解剖学、生理学をコアに据えた体系的・系統的教育を受験対策として1年次早期から整備するとともに、受験学年においては科目間の有機的な相関を踏まえた「総合的指導」が合格率の向上に寄与するものとする。

(3) 27年度受験対策の進捗状況：26年度末実力試験データから履修済みの解剖学、生理学の学習内容の定着度を検証。7月の模擬試験データから全科目対象に不振科目や弱点箇所を個別に抽出し、各科目にA～Dの4段階判定を行った。C、D段階の者を対象とした補習を実施した。

#### III. 諸データの活用法の提案

模擬試験等の成績データは利用者個々の学習指導への活用のみならず、科目担当者の教育指導方針策定への重要なデータとなり得る。またグラフやテーブル等、データの可視化は職員間の共通認識を形成し個々の役割を明確にさせ、相互の連携を強める基盤となる。弱点科目の克服と国家試験の確実な合格に向けた学習支援体制確立のためにも、客観的データに基づく戦略的な教育的支援法の立案能力がさらに望まれるところである。